嘉永六年「村上家乗」参考資料（令和6・10・26）17

◎六月廿四日

①将雨終不雨…将（まさ）に雨ならんとして終に雨ならず

②竹腰恰（たけのこしあたか）…参考資料15、73頁⑤、嘉永七年鎗奉行以前の役職は不明。先祖は美濃国の豪族で、尾張徳川家・付家老の竹腰家と同族。

◎六月廿八日

③老女並…＊六丁目様付女中であった「たつ」は、懐妊して嘉永4年8／4に一人扶持を加えられ、「老女（並）」に昇進、同年12／12に「於霜様」（嘉永6年7／25死去）を、嘉永6年6／28に「於留様」（8／8に礒、安政元年12／15に時と改名、安政2年5／17死去）、嘉永7年10／4に「舎人様」（同年12／15に市松と改名、安政3年3／5死去）、安政2年10／17に「太吉様」（安政3年4／1に助七と改名、同4年10／23死去）を出産する（安政4年5／17～同6年3／14の又吉の母親は不明）が、いずれも早世し、浅野道博が万延元年5／25に死去すると、たつは同年7／16に「御暇」となった。

④昨年予か梅花…彦右衛門は前年閏二月に草津梅谷で観梅している。嘉永二年正月廿日の同所観梅でも「景色無双也」と書き残している。

○（嘉永五年閏二月八日）「退出後小倉甚右衛門・三宅内外を伴草津之梅谷之梅花を訪、入夜帰、最早節過花半残、然共風景者佳也、

＊草津梅林は、江戸時代から梅の名所として有名で、瀬戸内海を望む高台にあり、花の時期には多くの人が訪れました。明治時代につくられた山陽線唱歌の38番に『♪己斐の松原五日市おるれば草津の梅林　宮島駅の海上に立てる鳥居は厳島』（大和田建樹作詞）と歌になるほど有名だったようです。梅の時期には己斐から古江にかけて、弁当をさげた人の列が続いたと言われています。（後略）

企画展示室 － ひろしまWEB博物館（mogurin.or.jp）

大正7年の「草津梅山鶯縮園」絵葉書
県立文書館・長船友則氏収集資料
（200407／1373）

⑤三十律…形式や規則にのっとった「近体詩」には、五言絶句（五語×四句＝二〇語）・七言絶句（七語×四句＝二八語）、五言律詩（五語×八句＝四〇語）・七言律詩（七語×八句＝五六語）がある。「三十律」は、特定の題材でよんだ五言律詩、または七言律詩三〇編のことか。ちなみに、仙台藩出身の斎藤竹堂という儒学者の作品に、村里での暮らしを題材によんだ「村居三十律」がある。

◎六月廿九日

⑥恭悦（恐悦）…目上の人の喜ばしい出来事を自分も喜ぶという気持を表わす語。

◎六月卅日

⑦取合…「取合」（とりあはす）は①寄せ集める。あれこれ取り集める。（『角川古語大辞典』）

⑧頒賜（はんし）…主などが臣下に恩賞を分かち賜ること。

⑨三原西瓜…彦右衛門は、東城浅野家の奥を通じて三原浅野家からの土産を下賜されるのが恒例。嘉永五年以降、毎年のように十一月～十二月に（大浜）大根をいただくが、この年と安政四年（六月廿三日）、文久三年（六月廿七日）は西瓜、安政三年（八月廿九日）は三原酒、元治元年は蒟蒻と里芋をいただいている。

西瓜　宮沖新開に作る、福山領手城最上なり、相次て此地の産を佳也といふ

「三原志稿」七（『三原市史』第四巻　資料編一）

⑩多寡（たか）…多いことと、少ないこと。

⑪凡四十間…約72～73M。黒船四艦の実際の長さは、サスケハナ号は257フィート（78・3M）、ミシシッピ号は229フィート（70M）、サラトガ号は146フィート3インチ（44・60M）、プリマス号は147フィート6インチ（44・96M）。

⑫人数四百計…四艦のうち最多はサスケハナの三〇〇人。四艦の合計一〇八〇人（「令和六年十月例会資料」裏の表参照）。

⑬日本船二千石積之船…中世末期から江戸・明治にかけて、日本で国内海運に広く用いられた大型木造帆船を「弁才船（べざいせん）」という。弁才船などの廻船の大きさは、その主な積荷である米の単位である石（一石＝四〇貫＝約一五〇kg）で表される。千石船の積載量は三〇〇トン、排水量は約二〇〇トン。佐渡市で今年七月に七年ぶりに屋外展示された千石船「白山丸」の全長は24メー

トル、幕府が天明年間に建造した千六百石級の廻船「三国丸（さんごくまる）」の全長は27・3メートルであったという。彦右衛門が想定する二千石船の全長（28間＝50・8m、29間＝52・7m）は少し大きすぎる気がする。

⑭払暁（ふつぎょう）…夜が明けようとするころ。あけがた。黎明（れいめい）。

⑮奉行…浦賀奉行のこと。戸田伊豆守氏栄（うじよし、弘化4・2／9～安政元・6・4）と井戸石見守弘道（嘉永6・4・28～12・15）。

⑯勘定奉行…ペリー来航時の勘定奉行は、**石河（いしこ）土佐守政平**（天保14・閏9・20～安政2・8・9）、**松平河内守近直**（弘化元・8・28～安政4・7・24）、本多加賀守安栄（嘉永5・4・28～安政5・11・26）、**川路左衛門尉聖謨**（としあきら、嘉永5・9・10～安政5・5・6）。**＊太文字は海防掛兼任**

＊老中阿部正弘は、弘化二年に海防掛を常設とし、阿部などの老中と、若年寄のほか、大目付・目付（目付方）及び勘定奉行・勘定吟味役（勘定方）からも海防方を選任した。嘉永五年にオランダ商館長からペリー来航が予告された時、正弘からの諮問に対して、目付方が国書の受取りを主張した一方で、勘定方は国書の差戻しを主張していた。

⑰長州侯（毛利敬親、もうりたかちか）…萩藩主。文政二年（一八一九）～明治四年（一八七一）。天保八年四月萩藩主毛利斉広跡の家督を継いだ。同十・十一年質素節倹と流弊の改正を企て、村田清風らを登庸して財政整理と文武の興隆に着手し、十二・十三年江戸に文武修業の有備館を建て、藩内の淫祠解除・町村実態調査、十四年の萩羽賀台の大操練を行うなどの具体策を実施し、また嘉永二年藩校明倫館の革新を行った。同六年六月米艦渡来に大森を、十一月相模を警衛、安政五年六月兵庫警衛に転じ、また八月密勅降下して尊王に尽力することとなった。（中略）

同二年八月幕長戦に勝ち、三年十月討幕の密勅を受け、十一月藩兵を東上せしめ、十二月官位を復旧した。明治元年五月上京し、九月参内して左近衛権中将に任ぜられ、一旦帰藩した。同年六月権大納言に進み、世子広封（元徳）とともに賞典禄一〇万石を下賜され、同月家督を広封に譲って隠居した。三年五月東京に行き参内して十月帰国し、四年三月遺表を献呈して山口藩庁内殿で病死した。年五三。

毛利敬親肖像画（ウィキペディア）

『明治維新人名辞典』（吉川弘文館）から抜粋

⑱墺（おき）…音読みは㊀イク・オク㊁オウ、訓読みは、くま／和おき、字義㊀①くま。水が陸地に奥深く入り込んだ所。また、その水際。②にごる。㊁①ふかい。②湾の、船を停泊させる所。（後略）

和おき。海や湖の、岸から遠く離れた水上。沖。（『角川大字源』）

⑲伊東様大夫人…広島藩主浅野斉粛（なりかど）の祖父、浅野重晨（あさうら）の十女為姫。文化六年（一八〇九）十一月六日に日向国飫肥（おび）藩（五万石、現日南市）主伊東祐民（一七九二～一八一二）に嫁す。同藩の上屋敷は「外桜田大手より一四丁」（新橋）にあり、「新橋御奥様」と称された。祐民死去後は同藩中屋敷（田町）に居住、ペリー艦隊が江戸湾測量を始めると、下屋敷（千駄ヶ谷）に避難した。

⑳乗切…乗りとおすこと。乗ったままであること。のりづめ。

㉑解纜（かいらん）…（纜（ともづな）を解く意）船が出帆すること。船出（ふなで）。

㉒割雞（かっけい）…にはとりをさく。小さな仕事の喩。「割レ雞焉用二牛刀一」（鶏を割くになんぞ牛刀（ぎゅうとう）を用いん）は、小さい雞を料理するには、牛を料理する大庖丁を用いるまでのことはない。力が課せられる仕事より大きすぎる喩。（諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店）

㉓蒙古源義満君…文永十一年（一二七四）と弘安四年（一二八一）の二度にわたる蒙古襲来（元寇）のことか。当時の司令官は鎌倉幕府第八代執権の北条時宗（一二五一～八四）で、室町幕府の第三代執権、足利義満（一三五八～一四〇八）ではない。義満には強硬的な外交を行った事実はない。

㉔御火消…広島藩主浅野斉粛は、前年の参府以来「東叡山火之御番」を命じられ、嘉永六年は帰国が認められず、継続して役を務めた（嘉永六年四月五日頭書）

㉕曲輪（くるわ）…一定の地域を限り、その周囲と区別するために設けた囲い。城や砦のまわりに築いた土や石の囲いなど。江戸城の内曲輪は、現在の皇居前広場（西の丸下曲輪跡）、北の丸公園（北の丸曲輪跡）に加え、大手町（大手前曲輪）と丸の内・有楽町（大名小路曲輪）から成り、各々が水濠に囲まれていた。江戸城跡㈡概要編・東京都千代田区・日本最大の城・伝統の日本紀行

令和六年十月例会資料（九月分後追い）

家乗嘉永六年　六月廿三日

一、先月の解読文活字読みの確認点　なし

二、指摘・意見・質問・他

① 六月廿二日頭書・廿三日本文『方切』

方＝方角・方向　切・限＝区切り・期限・終り　（国語辞典）

方切帳【ホウギリチョウ】江戸時代の帳簿。田畑や屋敷地の保有者変更を記した。（歴史民俗用語辞典）

「方限」でも調べてみました。

方限【ほうぎり】集落の区域。「（それから：夏目漱石）川向いの方限の某といふものに突き当たった・・」（日本方言大辞典）

前略・サツマ独特の言葉のようで、方限（ほうぎり）の「方」は、方角の「方」。その意味は、「中心から四方に伸びた土地のこと」です。方限の「限」は、限度・限界の「限」と書きますので、区切りという意味です。従って方限（ほうぎり）とは、「区切りのある土地・地方のこと」を指します・後略（ＭＢＣ・薩摩の教え）

依って「方切(限)」（ほうぎり）は、土地・地区・区域を表す言葉ではあるようです。

② Ｐ65－14行目『同心抔彼是乗船、早速追駆、無難漕付』

同心：江戸幕府の下級役人のひとつ。諸奉行・京都所司代・城代・大番頭・書院番頭・火付盗賊改方などの配下で、与力の下にあって庶務・見回などの警備に就いた。身分は足軽階級の者（士分格を持たない）が当てられた。（Wikipedia）

さて追掛けはしたが追付けず、投錨・停泊の後浦賀奉行所与力の中島三郎助が浦賀副奉行を詐称し、香山栄左衛門・近藤良次・ハレロ佐々倉桐太郎らと通詞の堀達之助・立石得十郎が艦隊に向かった。・・・翌日与力の香山栄左衛門が浦賀奉行を詐称し、浦賀の最高の役人であるとしてサスケハナ号に乗船許可を求めた（ペリー来航と嘉永六年の対外意見（上）（三浦顕一郎））

③ Ｐ66－5行目『者頭』他

者頭（ものがしら、物頭とも）足軽部隊を引率・指揮する足軽大将のこと。

出張（でばり、ではりとも）1戦いのために他の場所へ出向くこと。2・3略

先手（さき-て）1本陣の前に位置する部隊。また、一番先に進む部隊。先陣。先鋒。2行列や供揃えなどの先頭をつとめる者。

長柄（ながえ）三間または三間半の長柄の槍をもつ足軽。別名長柄者(ながえもの)

④ Ｐ66－6行目及び参考資料15－Ｐ72の解説、Ｐ76の玉割表　大砲のこと

三百匁（1.125キログラム）筒の大きさは、口径で見てみると凡そ57ミリメートル位の様です。テニスボールより大分小さいですね。二百匁（750グラム）筒は口径約48ミリ。

一貫目（3．75キログラム）筒の口径が約89ミリ。一般女子の砲丸投げ用砲丸が直径95ミリ、4キログラムです。三貫目（11．25キロ、約150ミリ）

例会で先生が述べられたように、広島藩は大砲の整備に関して遅れていたようです。

当御国ニも大炮御製作被仰出、権之丞殿方ニ而テンセイ(転製)筒与唱候筒五貫目玉与三貫目玉二挺新鋳立ニ相成、当十月頃迄ニ者出来之積（嘉永六年八月）

奥氏西洋流ボンベン筒之打試於江波有之（嘉永六年九月）

諸国寺院之梵鐘大炮・小銃ニ鋳換之達（安政二年四月）

今日雅楽様之方先達而御鋳造相調候六封度之大炮、此度御放試既ニ今日於江波有之、雅楽様ニも為御見物御出被成候由（安政三年六月）

先年以来追々御武器之方御力入候ニ付而者、三百目玉以下、弐百目玉・百目玉・三拾匁玉筒等段々御出来ニ而、発煩車・神機車抔都合七挺相調、此度大炮備之稽古始り、足軽組之者倅組等組合せ其業被仰付、昨日ゟ稽古始候由、（家乗文久元年九月）

ボンベン⇩・・・一貫目以上を石火矢とよんでいた・・・ホンベンについても、同書に「（前略）これら火砲のうち、「狼煙筒」ないし「ホンヘン筒」とあるものは、狼煙玉(信号弾)およびボンベン(Bommen 炸裂弾)のいずれも発射可能な、和流の曲射砲と考えられる。（船橋市デジタルミュージアム資料ゟ）

三、報告・お知らせ

✧ 次例会は、十一月十六日（第3土曜日）午後一時半です。於第一・第二研修室です。第二研修室白板を前とします。当日の会場当番は、A3班及びB4班です。

十二月例会は、十二月廿一日（第3土曜日）です。

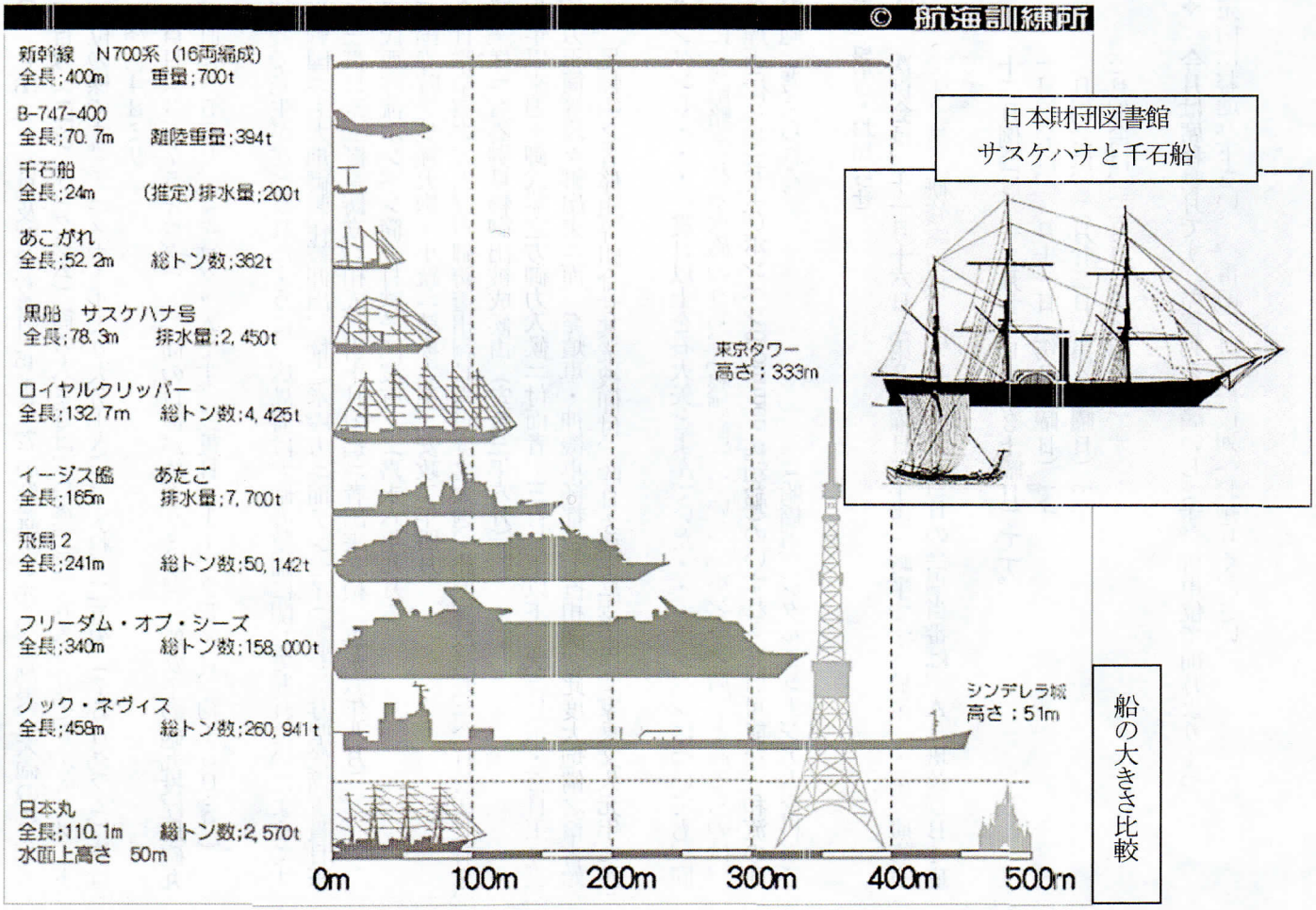
一月例会は、一月十一日（第2土曜日）です。

二月例会は、二月廿二日（第4土曜日）です

三月例会は、三月日（第土曜日）です

22
4

✧ 今月は席移動月です。席移動をお願いします。班単位で前月より1つ宛前にお進み下さい。一番前の班は最後列へお廻りください。

嘉永６年来航の艦艇の概要

艦名	艦種	建造年	トン数	乗組員	機関出力	備砲
サスケハナ Susquehanna	蒸気外輪 フリゲート	1850 年	積載量 2,450 トン （bm トン） 排水量 3,824 英トン	300	420NHP 795IHP	150 ポンドパロット砲 x2 9 インチダルグレン砲 x12 12 ポンド砲 x1
ミシシッピ Mississippi	蒸気外輪 フリゲート	1841 年	積載量 1,692 トン （bm トン） 排水量 3,220 英トン	260	434NHP 650IHP	10 インチペクサン砲 x8 8 インチペクサン砲 x2
サラトガ Saratoga	帆走 スループ	1843 年	積載量 882 トン （bm トン）	260	無	8 インチ砲 x4 32 ポンド砲 x18
プリマス Plymouth	帆走 スループ	1844 年	積載量 989 トン （bm トン）	260	無	8 インチ砲 x8 32 ポンド砲 x18
				計 1080 人		計 73 門